SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

伊豆の国市観光ヒアリング調査報告

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-09-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 狩野, 美知子, 野方, 宏 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00009145

伊豆の国市観光ヒアリング調査報告[1]

狩野 美知子・ 野方　宏

はじめに

本ヒアリング調査報告は，静岡大学人文学部経済学科の教員を中心とした観光研究プロジェクト・チームが実施した第12回目の報告である．伊豆地域については，これまで熱海市（第1回），伊東市（第4回），下田市および松崎町（第5回）に対するヒアリング調査を行っており，東伊豆および西伊豆の一部が対象であった．今回は，中伊豆地域の伊豆の国市の観光商工課および観光協会に対する調査であり[2]，以下のように実施した．

日　時：2008年11月14日　10:00～12:00
応対者：伊豆の国市観光産業部観光商工課　浅賀敏雄氏
　　伊豆の国市観光協会事務局長代理　相磯和男氏

ヒアリング調査の実施にあたり，事前に以下の調査項目を送付した．これに沿った形で，ヒアリング調査の記録を以下にまとめる．

1. 観光統計関連資料の入手及び最近の観光動向
2. 外国人観光客の誘致活動と受け入れ状況
3. 広域観光への取り組み
4. 独自の取り組み（観光資源の活用，ブランド化の事業など）

---

[1] 今回のヒアリング調査を含めた2008年度の観光研究プロジェクトに対し，静岡大学人文学部および静岡大学人文学部経済学科から，研究資金の助成を受けた．また，ヒアリング調査にご協力いただいた伊豆の国市観光商工課浅賀敏雄氏および伊豆の国市観光協会相磯和男氏にお礼申し上げる．
[2] なお，本ヒアリング調査と同時期に実施した中伊豆地域の伊豆市の調査も近いうちに報告する予定である．

5. 富士山静岡空港への期待
6. 行政の観光支援活動

1. 伊豆の国市の概要と最近の観光動向

伊豆の国市は，伊豆半島北部，田方平野の北部に位置し，2005年4月に伊豆長岡町，韮山町，大仁町の3町が合併したことにより誕生した．人口は50,011人（平成17年度国勢調査）と，このところ5万人程度で推移している．市内には，畑毛温泉，韮山温泉，伊豆長岡温泉，大仁温泉と4つの温泉場が点在している．温泉場の中心は，明治に開湯された伊豆長岡温泉である．また，畑毛温泉は湯治場として昔からこの地域ではよく知られていた．

ここの宿泊施設の特徴として，東伊豆地域で見られるような大規模旅館がないことおよび，公共の宿泊施設が多いことがあげられる．この公共の宿泊施設は観光協会には加盟しておらず，これを除いた市内の宿泊施設は現在60軒弱である．宿泊施設数は減少傾向にあるが，東伊豆の伊東のような再生ファンドによる買収の動きは見られていない．

また，市内には富士見ニュータウン，エメラルドなどの別荘地がいくつかあり，2地域居住の人もいるが，伊豆市や下田市のような積極的な誘致活動は行っていない．先にみたように伊豆の国市の人口はほぼ横ばい状態にあるが，特に定住人口を増やす取り組みも行っていない．

図1にあるように，観光交流客数（宿泊客＋観光レクリエーション客）は，1990年度をピーク（389万人）に，ここ20年ほどほぼ一貫して減少を続け，2007年度は252万人とピーク時の3分の2の水準となっている[3]．2007年度は，ピーク時に比べ，宿泊客は42万人減（△33%），観光レクリエーション客は97万人減（△37%）である．なお，2006年度から宿泊客に入湯税非課税者（幼児等）を算入するようになったため，統計上の宿泊客数は若干増加しているが，実感としてはやはり減少しているということであった．

図2の観光施設等利用客数を見ると，ここ数年は140万人前後で推移している．個別にみると，多くの施設が減少傾向にある中で，日帰り温泉施設の利用客数が大幅に増加している（2.5倍～3倍）ことが特徴的である（表1参照）．ここ数年の日帰り温泉ブームを反映した結果と考えられる．

---

[3] 図1の注2に記したが，「日帰り（休憩）客数」を含めた観光交流客数のピークは1988年度の532万人である．

2. 外国人観光客の誘致活動と受け入れ状況

2007年度から，特定非営利法人伊豆の国ルネサンスが，国土交通省の観光ルネサンス補助制度[4]による補助金を受けている．現在，外国人観光客誘致のために，イベントや2次交通の整備，受入れ組織の改善といった基盤整備を中心に行っている．

主な活動は，以下の通りである．

①4ヶ国語（日本語，英語，中国語，韓国語）のパンフレットの作成

②外国人向けボランティアガイドの養成

③伊豆箱根バスを使った「富士山と歴史めぐりバス」の催行

（大人１人1,600円，3時間コース，伊豆箱根バス株式会社による運行）

④4ヶ国語（日本語，英語，中国語，韓国語）の観光案内板の設置

①のパンフレットについては，外国人と日本人の興味を示すところが違うため，どういったところに興味を持つのか現在勉強中である．今までのところ，英語のパンフレットは比較的利用されているが，中国語や韓国語のパンフレットの利用は少ない．②のボランティアガイドの育成については，旧韮山町では2001年からボランティアガイドの研修を行っており，現在約20名が活躍している．このボランティアガイド（通訳）を事前に予約すれば，③の富士山と歴史めぐりバスに無料で通訳をつけることができる．

外国人宿泊客は，2008年4月～9月までで，4,000人を超えており，昨年の倍の数となっている．これは外国人宿泊客の統計の取り方に変更[5]があったことも1つの要因とはなっているが，それだけではなく，外国人観光客それ自体が増えてきていることによる．外国人観光客は東アジアからのそれが圧倒的に多い．誘客は個別の旅館が取り組んでいるが，ある特定の旅館が大部分の外国人観光客，特に中国からの観光客を引きつけている．外国人宿泊客の場合，直前予約やキャンセルがあるので，ある程度の規模を持つところでないと団体は受けられないというのが現状である．また，インターネットを経由した個人客の利用も増えてきている．

外国人宿泊客に対しては，たたみ，布団，箸，お膳といった日本旅館を体験することを楽し

---

[4] 観光立国推進のため，観光地の活性化に取り組む「民間」の活動を支援する補助制度で，2005年度に創設された．市町村が地域観光振興計画を策定し，その計画に沿って観光地の活性化に取り組む民間の組織を，市町村が認定する．認定を受けた民間組織が実施する事業で，観光商品の企画開発，地域イベント活性化事業，多言語人材育成，多言語観光パンフレット・標識の作成事業等の経費が補助される．

[5] 前年までは，外国人宿泊客に日本人の同行者がいる場合，宿帳に記入するのが日本人だったため，外国人客の数をカウントしなかったが，2008年からはこれらの外国人もカウントするように変更した．

んでいただくという形で，現状施設を活用する方針で進んでいるため，率先して外国人向け施設の投資は行っていない．ただ，館内表示についてはわかりやすく，かつ外国語で表記する等の改善を進めている．

3. 広域観光への取り組み

伊豆は国土交通省の管轄では中部管内（名古屋）に入るが，伊豆は半島に一度入るとそこから出られないということで，中部地域の広域観光の取り組みには入れてもらえない．また，ＪＲについても，伊豆は熱海でＪＲ東日本とＪＲ東海に分かれるという特殊な位置にあり，広域への取り組みがスムーズにいかないところもある．外国人の誘客を考えると，伊豆だけでは厳しい部分があり，静岡県が主導している「富士箱根伊豆」という観光圏に絡めて取り組んでいく必要があると考えている．例えば，東アジアの観光客に人気の芦ノ湖遊覧船やケーブルカーと御殿場アウトレットや伊豆の国市でのショッピングといった形でのルートの提案など，どうアプローチしていくのかといったことを考える必要がある．

前述の日帰り温泉施設の利用客数の増加に見るように，日帰り客（観光レクリエーション客）が増えてきている．今は道路も整備されて，１日で伊豆を回れるようになっている．日帰り客にとって「伊豆は１つ」であり，伊豆の国市も伊豆市も伊東市も違いがわからずに訪問してくる．観光案内所でも，伊豆の国市という名前から，伊豆全体の案内所だと思って問い合わせてくる人が多い．１つの行政区域だけで，いかに観光客にお金を使ってもらうかを考えるのは無理な時代になってきており，この点で広域観光への取り組みの必要性は感じている．

4. 独自の取り組み

(1) 観光パスポートの発行

宿泊客数の減少に歯止めをかけるための1つの手段として，2008年度に「伊豆の国観光パスポート」という観光パスポートを作った．1部1,000円のこの観光パスポートを購入すると，以下のサービスが受けられる．

①108の協賛店で割引やオリジナル記念品のプレゼントが受けられる

②協賛店でスタンプを集めると景品と交換できる
③自動的に地場産品等の抽選に応募できる
④年に2回パスポートブックが届く
⑤無料入浴券1枚がついている

これはリピーターの獲得を目的としたもので，④のパスポートブックでは，着地型商品のようなものを紹介し，市販の情報誌では載っていないような地元の情報を提供する．着地型商品を継続的に紹介することにより，伊豆の国市のサポーターになってもらおうというものである．市内数か所に販売所があり，全体の把握はボランティア組織「伊豆の国観光パスポート実行委員会」（会長は観光協会長）事務局が行っている．

(2) フルーツ狩り

観光向けの事業として，フルーツ狩りがある．いちご狩り（12～5月），みかん狩り（10～1月），ブルーベリー狩り（6～8月）と，ほぼ1年を通して行える．この他にも，規模としては小さくなるが，サクランボ狩り，マンゴー狩り，お茶つみ（春，秋）などを個別の農家が行っており，またそば打ちなどの体験ができるところもある．体系的にはまだ整えられていないが，来年度からメニューを提示しようと考えている．

また，見学できる所に制限はあるが，バラ，鉢物，洋ランなどの花き栽培をしているところもある．バラやトマトの栽培に取り組んでいる人の中には，Ｉターン，Ｊターンのニューファーマー（新規就農者）もいる．

(3) 映画・ドラマの撮影地

フィルム・コミッション伊豆（以下FC伊豆）[6]による映画・ドラマの撮影地の誘致が行われている．FC伊豆は老舗で信用もあり，広告効果も大きい．伊豆の国市のメインの観光施設の1つである江川邸が，NHKの2008年大河ドラマ「篤姫」のロケ地になり，市民もエキストラで出演した．番組最後のテロップに伊豆の国市の協力というのが流れたため，江川邸の大きな宣伝にもなった．これにより，一時期減少していた江川邸の入場者が増えた．その他にも，時

[6] 2000年に伊豆全域を対象とする住民主体のまちづくり団体「NPO伊豆」が発足したが，翌年これが特定非営利活動法人となり，その活動部会として「フィルム・コミッション伊豆（FC伊豆）」を設立した．伊豆の国観光協会と伊豆市は，このFC伊豆に出資をしている．FC伊豆は，2005年には経済産業省「地域内連携におけるコンテンツ製作環境整備モデル事業」を受託し，伊豆全域におけるコンソーシアムの形成を推進している．

代劇に江川邸の門と母屋の部分が使われたりしている．また，市内数ヶ所が 2008 年に公開された映画「少林少女」のロケ地としても使われ，少林少女ロケ地マップが作成されている．

映画やドラマの撮影で利用されると，ロケ宿泊者（特に映画は長期滞在となる）とその後の来場者の両方で経済効果が期待できる．旅番組での紹介も１つの宣伝方法であるが，若い人に人気のある俳優がこの地を訪れ撮影がされると，影響力も大きく，宣伝効果も高い．

(4) 安全・安心の健康なまちづくり

2007年から，安全・安心の健康なまちづくりに取り組み，高機能野菜，例えば，糖尿病に効くといわれる菊芋の栽培を行い，それを使った料理を旅館で提供するところもある．菊芋の栽培は，市が音頭をとって地元の農家に栽培してもらい，農家と旅館との仲介役をつとめている．ただし，現状では，欲しい時に欲しいだけの量が手に入るほどの生産量ではなく，今は実験段階といえる．単なる地産地消を超え，野菜そのものに効能があるということを付加できれば，売りになるのではないかと考えている．なお，映画「少林少女」のなかで，菊芋のチャーハンを作るというのがあり，菊芋のチャーハンを「少林チャーハン」と名付けて販売されている．

健康と関連して，「かかりつけ湯[7]」として，市内には畑毛温泉の駒の湯源泉荘，伊豆長岡温泉のゑびすや，ホテルサンバレー富士見，おおとり荘があるが，客の体調などの問題のためその効果がわかりにくいので，かかりつけ湯の運営は難しいとのことであった．

この他に，外国人客を対象に，温泉でゆったりし，（旧）田方医療センターで日本の人間ドックを受け，心身ともにゆったりしませんかというメディカル・ツーリズムを検討中である．また，畑毛温泉は湯治場としての歴史[8]があり，先の（旧）田方医療センターにかえて，市内には順天堂大学病院，隣の函南町にはＮＴＴ東日本伊豆病院などもあり，メディカル・ツーリズムは伊豆の国市の観光の １ つの方向と言えるかもしれない．ただし，ヒアリング調査の際に，「旅館街として湯治という売り出し方は難しい」との声も聞かれた．

---

7 「かかりつけ湯」とは，静岡県の外郭団体であるファルマバレーセンターが選んだ，健康増進や癒しのための伊豆の温泉宿泊施設である．良質な温泉を基本とし，「健（温泉を活用した健康プログラム）」「食（健康に配慮した食事）」「癒（さまざまな癒しの提供）」「料（リーズナブルな価格設定）」のうち少なくとも１つ以上の特徴で，癒しと健康を提供するというコンセプトを持つ．

8 因みに，鎌倉後期の史書『吾妻鏡』に，京の殿上人が伊豆国北条小名温泉（現在の古奈温泉）に来たりとの記述がある．

(5) 伊豆長岡の芸妓組合

伊豆長岡の芸妓組合も重要な観光資源である．芸妓は現在30名程度（公称50名だが，若い人の出入りが激しく，実際は30名程度）いる．大きなステージでやっていた芸妓祭りを，今年からホテル（ホテル天坊と楽山やすだ）の大広間で，チェックアウト後の11時から1時間程度行っている．10月末から12月初めまでの毎週月曜日に，踊りを見た後，簡単なお座敷遊びをし，最後にみんなで輪になって踊っていただくという趣向で行っている．定員100名で行っているが，190名集まったこともある．圧倒的に女性の観光客が多く，踊りが好きというのが根本にあるようだ．一緒に踊ることを楽しんでいるようだとのことである．また，再来時に女性のお客にも呼んでいただきたいという宣伝のため，入場無料で行っている．

伊東などで行っている芸者姿体験コースは，芸妓見番の建物があまりにも古くて，耐震基準に問題があるので，現在どうするか検討中である．芸妓学校が昭和の初めにあったのは，伊豆長岡温泉と京都の祇園だけという古い歴史をもっていることを考えると，今の衰退が残念である．

5. 富士山静岡空港への期待

第2節でみたように，伊豆の国市では国土交通省の観光ルネサンス事業を実施しているので，富士山静岡空港（以下，静岡空港）による外客誘致に神経をとがらせているが，伊豆の他地域はあまり外客には期待していない．伊豆の他地域の静岡空港への期待は，北海道，九州，沖縄といった日本人客の誘客の可能性ではないかとのことであった．

西伊豆では，フェリー・バス・伊豆急行の3日間のフリーパス[9]を開発したが，現在，この地域でも中伊豆のフリーパス（フェリー＋東海バス＋伊豆箱根鉄道）のルート開発に取り組んでいる．行政と観光協会と交通業者で組織する中伊豆・西伊豆の観光推進協議会で話し合われている．外国人の客にとって，フリーパスの利用は必須である．

---

9 伊豆急行（伊豆急行株式会社）と駿河湾フェリー（株式会社エスパルスドリームフェリー），東海バス（東海自動車株式会社）の3つの乗り物で使える3日間のフリーパス．清水駅－清水港－土肥港・土肥温泉－恋人岬－－堂ヶ島－松崎－花の三聖苑－伊豆急下田駅－河津駅－伊豆稲取駅－伊豆熱川駅－伊豆高原駅－伊東駅を結ぶ黄金路ルート（大人5,890円）と，清水駅－清水港－土肥港－土肥温泉－修善寺駅－湯ヶ島－浄蓮の滝－天城峠－河津七滝－河津駅・伊豆急下田駅－伊豆稲取駅－伊豆熱川駅－伊豆高原駅－伊東駅を結ぶ山葵路ルート（大人6,500円）の2種類がある．

静岡空港からのリムジンバスは，静岡県西部は運航が確定し，中部の静岡もほぼ確定しているが，県東部だけは未だに決定されていない．伊豆急行が三島をターミナルにして検討しているが，採算的に難しい．ただ，それを作らないと，静岡空港から遠いので誘客は厳しくなる．特に，中国や台湾の人はできるだけ大きい荷物を預けっぱなしにしたいというニーズがある．リムジンバスが三島にきて，旅館のバスがそこに迎えに行くというのも１つの方法だが，それも難しい問題がいくつかある．２次交通，３次交通の部分をどう整えていくのかというのが，伊豆と静岡空港とをつなげる一番の課題である．

現在，静岡県内を中心に，いろいろなところで静岡空港と絡めた旅行商品のモデルを作っているが，ほとんどの地域のそれは日本人向けの商品である．日本人向けと外国人向けの両方の旅行商品を考えているのが，伊豆の国市の特徴といえるだろう．ただ，そのためには伊豆の国市だけでは観光資源が足りず，いろんなところに一緒にやらせて下さいと声をかけ，広域観光ルートを作ることが必要だと考えている．

6. 行政の観光支援活動

観光協会が事業を行い，伊豆の国市が補助金を出すという支援の仕方は，これまでヒアリング調査を行ったところと同じであるが，伊豆の国市の場合，事業の進め方は実行委員会などの形で観光協会と市が担当者を最低２名出し，観光協会と話し合い，一緒になって行っているということが，他の所と違う点である．2005 年４月の合併前から，協会と行政が一緒にやっていることが多かったことから，合併後も密接な話し合いを持ち，取り組みが行われている．

終わりに

今回のヒアリング調査を終えて印象的なことは，伊豆の国市と観光協会が緊密な関係をとりつつ，地域の観光振興に取り組んでいるだけではなく，様々なボランティアやＮＰＯを活用し，官民一体となった取り組みを展開しているという点であった．この地域では，歴史の好きな人を中心に歴史を勉強しに来た人を巻き込んで，地域の子供に地域の歴史を教えるということが，最初にあったという．また，活動の担い手もリタイアした人だけではなく，40歳代以降だが，

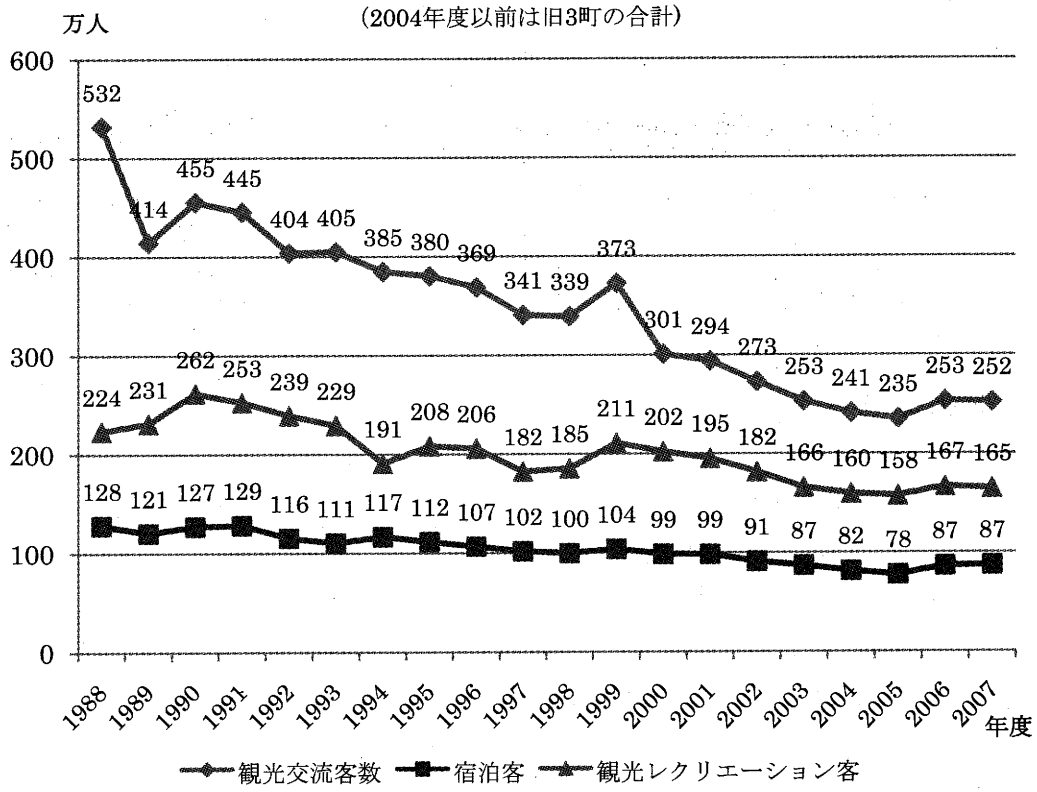
勤め人や主婦の積極的な参加があった．これまでのわれわれの他地域でのヒアリング調査では，こうしたボランティアの人々に行政が積極的にかかわる形での観光支援活動はあまりみられなかった．今後のより一層のこうした活動に期待したい．

[参考ＵＲＬ]

- フィルム・コミッション伊豆ＨＰ：http://www.fc-izu.net/
- 伊豆の国観光パスポート実行委員会ＨＰ：http://e47.jp/izk/passport/
- 伊豆の国市ＨＰ：http://www.city.izunokuni.shizuoka.jp/
- 伊豆の国市観光協会ＨＰ：http://www.izunotabi.com/blog/index.html
- かかりつけ湯協議会ＨＰ：http://www.fc-izu.net/
- 国土交通省観光ルネサンス補助事業：
  http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/kanko/renaissance.html
- 静岡県観光局観光振興主要事業：
  http://www.pref.shizuoka.jp/kankou/kn-010/kankoukonbensyon.html

図1. 伊豆の国市観光交流客数

（2004年度以前は旧3町の合計）



出所：静岡県産業部観光局観光政策室『平成19年度静岡県観光交流の動向』より筆者作成

（注）1. 2006年度より「宿泊客」の調査対象および集計方法が変更され，「宿泊客」に入湯税非課税者（幼児等）を算入している．

2.「観光交流客数」は，1999年度以前は「宿泊客数」と「日帰り（休憩）客数」に「観光レクリエーション客数」を加えたもので，2000年度以降は，「宿泊客数」と「観光レクリエーション客数」の合計となっている．このため，1999年度以前は，観光交流客数が宿泊客数と観光レクリエーション客数の合計に一致しない．

3.「観光レクリエーション客数」は，1998年度に調査対象および集計方法が変更されている．

表1. 観光施設等利用客数

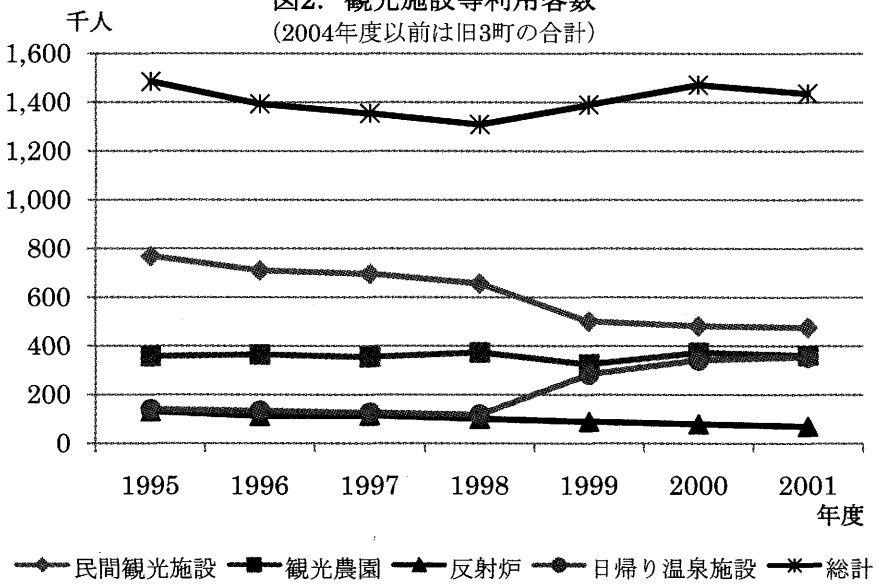
(2004年度以前は旧3町の合計)　　(単位：人)

区分	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
民間観光施設	768,685	709,320	696,112	655,946	500,137	481,811	475,993
市内イベント参加					135,371	140,249	117,300
観光農園	357,671	364,309	354,161	373,009	324,303	372,074	360,664
江川邸	57,168	49,855	43,021	40,857	38,591	37,993	39,501
郷土史料館	30,451	23,988	21,501	20,193	18,579	18,533	17,487
反射炉	130,999	112,437	113,858	100,900	88,890	79,022	70,031
日帰り温泉施設	139,675	133,349	125,505	117,805	283,167	341,780	354,780
総計	1,484,649	1,393,258	1,354,158	1,308,710	1,389,038	1,471,462	1,435,756

出所：伊豆の国市『伊豆の国市統計書』より筆者作成

図2. 観光施設等利用客数

(2004年度以前は旧3町の合計)



出所：伊豆の国市『伊豆の国市統計書』より筆者作成

(注) 江川邸，郷土史料館の値は，他の値と比較して小さいため，グラフから省略した．
また，市内イベント参加も2001年度～2004年度の統計値がないため省略した．